

## 学校教育における ICT 化の推進について

明石市立の小・中・養護学校においては、令和 3 年度より児童生徒一人一台のタブレット端末を導入し、教育の ICT 化を進めています。

### 1. 今年度の主な取り組み

今年度においては、児童生徒一人一人が日常的に端末を使えるようになることを目指し、1学期は「タブレット端末に慣れること」、2学期以降は、タブレット端末の機器の特性をふまえて「活用の幅を広げること」を念頭に活用を進めました。

(タブレット端末)

(小学校 1～2 年生)



(小学校 3 年生～中学校 3 年生)



(活用の様子)



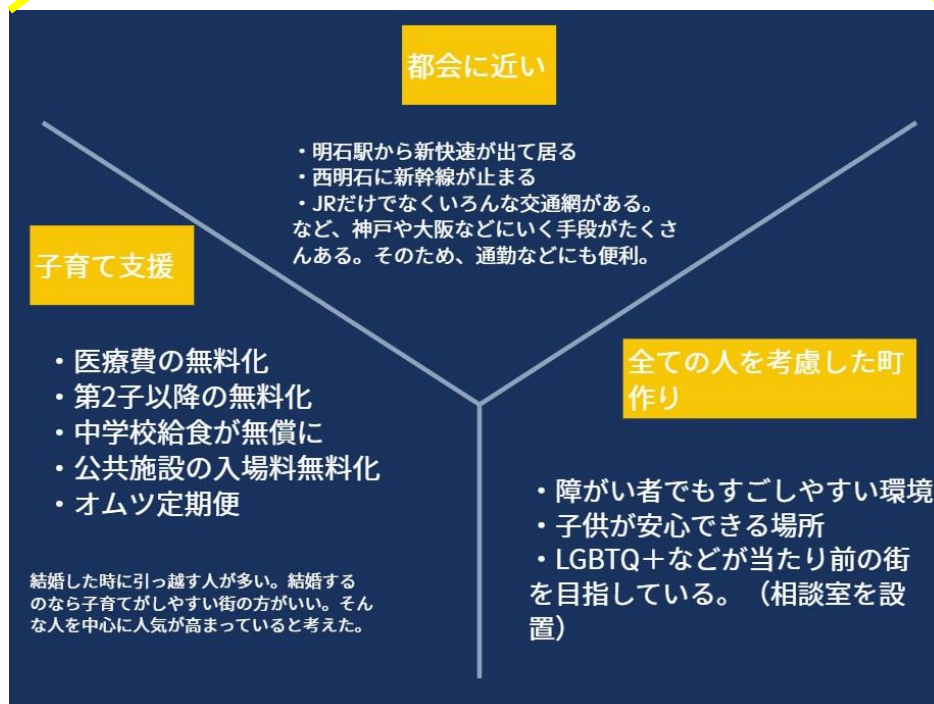
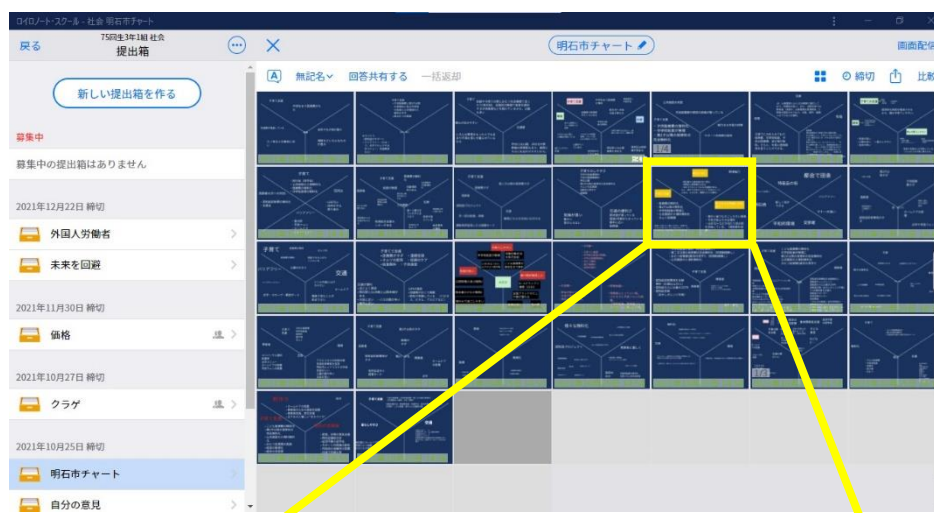
## 【1】 学習効果の向上

- 授業支援ソフトを活用し、手を挙げた数人の意見だけでなく、タブレット画面に全員の考えを一斉に表示することで、発表が苦手な児童生徒の考え方も共有しながら、深め合い認め合う学びが増えた。

(授業支援ソフトの共有画面)

中学校・3年社会

明石市で人口が増加している要因を、シンキングツールを利用して分類



- ・ 体育の授業でお互いの姿を撮影しあってフォームをチェックしたり、理科の実験で育てている植物をカメラで撮影して記録したり、カメラ機能を活用した効果的な学習ができた。
- ・ 導入したデジタルドリル教材を活用し、自動採点機能や他の学年の教材を利用することで自分のペースで学習ができた。

## 【2】 学習機会の確保

オンラインの特性を活かして、事情により登校できない児童生徒への対応も行ってきました。

- ・ 新型コロナ対応のため自宅待機となった生徒に対し、授業の様子の配信や課題データの送信をすることで、自宅に持ち帰ったタブレット端末を利用して毎日参加できるようにした。
- ・ 通学できない病弱学級の児童に対し、自宅に持ち帰ったタブレット端末を活用し、担当教師とのマンツーマンの双方向授業を行っている。また、修学旅行においてオンラインで参加できるようにした。
- ・ 不登校の児童生徒に対して、関係各課・学校とその児童生徒に相応しい対応を協議したうえで、タブレット端末を用いて、自宅で課題を取り組ませたり、学習活動の様子をオンラインで伝えたりしている。

## 【3】 その他

コロナ禍において密を防ぐために、オンラインで集会や周年式典に参加するなど、授業以外でも様々な利用が進んでいます。

その他、タブレット端末をもくせい教室やあかしこどもセンターで利用できるように環境を整えています。

## 2. 次年度の主な取り組み

令和4年度においては、タブレット端末をさらに有効的に活用できるよう、高丘小中一貫校に先行導入した大型提示装置を全中学校の普通教室に整備し、活用を進めて参ります。

また、いわゆるタブレット端末の持ち帰りを安全に行うための環境も整えていきます。

### 【1】 大型提示装置の導入

#### (1) 大型提示装置の主な役割

- ・ 教師用タブレット端末の画面、児童生徒用タブレット端末の画面、それらを並べた画面等を切り替えながら大きく表示し、共有することにより授業の理解を深める。
- ・ 個別にタブレット端末の画面を見るのに比べて、同じ画面を一斉に見ることで、教師の伝えたいことをはっきりと児童生徒に示すことができる。
- ・ 今後導入が進められるデジタル教科書やデジタル教材を大きくかつ素早く表示させ、また、画面上で書き込みもできることから、より視覚的に授業をわかりやすくできる。
- ・ 全校集会や遠隔地とのミーティング等を各教室で行う際に提示を行う。

## (2) 先行導入校（高丘小中一貫校）での具体的な活用事例

- ・ 黒板に比べてカラーで見やすく、複数ページの展開、変更も簡易であるため、授業中のロスとなる時間を最小限にできる。
- ・ 板書で書ききれなかったことや、書くまでもないが提示したほうがより理解が深まる資料、また口頭だけで説明しにくいことでも画像で見せて説明できるので、授業がより分かりやすくなっている。
- ・ 児童生徒に見通しを持たせるため、朝の連絡や本日の流れ、次の授業の指示等を提示させ、目で見て確認することができる。

（高丘小中一貫校での活用の様子）



## (3) 導入スケジュール（予定）

- 令和4年度 全中学校の普通教室へ設置
- 令和5、6年度 全小学校の普通教室へ設置

## 【2】 タブレット端末の持ち帰り

タブレット端末を学校で利用する際には、教師の指導のもと、標準のフィルタリング等で安全なインターネット利用を行っています。子どもたちが家庭に持ち帰って、教師の目を離れて使用する場合でも、安全に利用できるよう専用のフィルタリング環境の準備を行います。

子どもたちは、宿題等の家庭学習では、教科書やノート、筆記用具を使用しており、今すぐこれらが全てデジタルに置き換わるわけではありませんが、各学年の学習内容や子どもたちの発達段階、家庭学習の役割等を考え、何をするためにタブレット端末を持ち帰るのかについても検討していきます。

## 3. 今後について

誰一人取り残さない学びを実現するため、今後も、これまで積み上げてきた、子どもたちが主体的に学ぶ授業の中で「どの教科でも」「誰でも」効果的に活用できること、個別に最適化された学びに活用できることを目指して、ICT環境の整備を進めていきます。